

審査員特別賞

世界の森のために私が出来ること

愛知教育大学附属岡崎中学校 3年 鈴木 結生

世界と私のつながりなんて今までは感じたことも考えたこともなかった。ところが、この夏休みに体験したある出来事がきっかけで、私と世界が繋がった。私の大好きな場所が直面している地元の問題が、世界の環境問題と繋がっていることを知った。そして、私でも今住んでいるこの町で、世界の環境問題に貢献できる方法に気づいた。

小さな頃、私は森の中の自然豊かな場所で育った。私は木の香りやぬくもりが大好きだ。

岡崎城のすぐ近くに桜城橋という木でできた橋がある。木の香りがする大好きな場所だ。その桜城橋で行われた橋拭きというイベントに参加した。木の橋を雑巾がけをすることで、木のぬくもりを感じようというイベントだ。

そこで、この橋や市内のショッピングモールにある市役所の施設が、地元の額田地区で育てられた木材で造られていたということを知った。そして今、その額田の森が問題に直面していることを知った。

私は夏休みを利用し、額田地区で林業を営んでいる方に森林の課題についてお話を聞きに行った。そのお話をショックを受けた。

昔の人たちは、今の私達のことを思って、たくさんの木を植えてくれていた。しかし、昭和の東京オリンピック後、金属やコンクリートなどが使われるようになり、木は使われなくなった。林業の担い手も減り山に入る人が減ったことで山が荒れた。そして今、先人が植林した木が伐採期を迎えているのに、その木が使えないため外国から木材を輸入しなければならない状態になった。それが世界中の伐採に繋がり、一週間に東京都ほどの大きさの森林が消えてしまっているというのだ。

「木は使うべき時期に使えないと山が荒れ、災害になる。だからこそ、木をいつ使うか、どう使うかを皆で考えることが大切だよ。」

林業の方はこう語ってくれた。木を使わないことが大事なのではなく、木をどう使うか、いつ使うかという活用方法が大切なのだ。

日本の森の木を活用できていないことが、世界で起きている砂漠化や森林破壊につながっているということを聞いてハッとしました。

日本の木の活用方法を考えることが、世界の森林問題に良い影響を与えられるのだ。これなら私にもできる。小さな一歩かもしれないが、確実に世界と繋がり継続してできることがある。割りばしやトイレットペーパーなど日常品を買う時、木材を利用している物は、国産を購入するだけでも貢献できるのだ。

木の活用方法を調べていて、名古屋駅にも私の地元の木材を使っている施設があることが分かり見学させてもらった。大都会のビルの中にある全面木質化されたエントランス。香りも心地よくデザインも美しかった。まさに木材の良さを活用していた。

将来の夢ができた。今できる身近なこと、日常的な国産木材の活用はもちろん、国産木材を活用した商品や施設をデザインするような人になって世界と繋がっていかう。